

# 四大公害病の語り部講話を聴く集い ～語り部による伝承会～ プログラム

日時：令和5年10月21日（土）13:30～

会場：富山県立イタイイタイ病資料館 2階 交流学習ルーム

- |   |  |             |
|---|--|-------------|
| 1 | 開 会  | 13:30       |
| 2 | あいさつ   | 13:30～13:35 |
| 3 | 語り部講話  |             |
|   | (1) 「水俣市立水俣病資料館」の語り部による講話<br>語り部 永本賢二氏       | 13:35～14:05 |
|   | (2) 「新潟県立環境と人間のふれあい館」の語り部による講話<br>語り部 小町ゆみ子氏 | 14:05～14:35 |
|   | (3) 「四日市公害と環境未来館」の語り部による講話<br>語り部 伊藤三男氏      | 14:35～15:05 |
|   | (4) 「富山県立イタイイタイ病資料館」の語り部による講話<br>語り部 高木勲寛氏   | 15:05～15:35 |
|   | <休 憩>  | 15:35～15:50 |
| 4 | 意見交換会<br>テーマ：「語り部活動の継承に向けて」                  | 15:50～16:20 |
|   | 水俣市立水俣病資料館 語り部                               | 永本賢二氏       |
|   | 新潟県立環境と人間のふれあい館 語り部                          | 小町ゆみ子氏      |
|   | 四日市公害と環境未来館 語り部                              | 伊藤三男氏       |
|   | 富山県立イタイイタイ病資料館 語り部                           | 高木勲寛氏       |
|   | イタイイタイ病対策協議会 会長                              | 小松雅子氏       |
|   | 富山県立イタイイタイ病資料館 館長                            | 野田八嗣        |
| 5 | 閉 会  |             |

## 語り部紹介

### 水俣市立水俣病資料館 語り部

永本 賢二（ながもと けんじ）氏

- 1959年 水俣市梅戸町生まれ。
- 1970年 水俣病と認定（胎児性水俣病）
- 1975年 現熊本県立松橋支援学校へ進学。寮生活を送る。
- 1978年 水俣の瓦屋へ就職
- 1996年 「ほっとはうす」で仕事を始める。
- 2002年 「水俣市立水俣病資料館」の語り部となる。
- 現在 水俣市明神町在住。

### 新潟県立環境と人間のふれあい館 語り部

小町 ゆみ子（こまち ゆみこ）氏

- 1949年 現在の新潟市北区太子堂生まれ。  
阿賀野川下流のすぐ近くで生まれ育ち、兄が捕った阿賀野川の魚をよく食べていた。20歳頃から、痺れなどの症状が出始め、身体の具合が悪かったが、水俣病がどんな病気か知らなかったため、それが水俣病の症状と解らなかった。
- 2005年 実母が認定患者だったため、受診を進める手紙が来たので受診した結果、水俣病の疑いがあると診断される。
- 2009年 ノーモア・ミナマタ全被害者救済訴訟の原告となる。
- 2011年 新潟地方裁判所で和解が成立する。  
「新潟県立環境と人間のふれあい館」の語り部となる。  
(新潟水俣病阿賀野患者会会長、新潟県立環境と人間のふれあい館語り部 山崎昭正さんの実妹)

### 四日市公害と環境未来館 語り部

伊藤 三男（いとう みつお）氏

- 1945年 三重県鈴鹿市生まれ。
- 1969年 高校教員となってから桑名市ならびに四日市市で教鞭を取り生活し、組合活動を通じて四日市公害に出会い、訴訟終結後も市民団体として活動を継続。
- 1971年 四日市公害と戦う市民兵の会を経て、1997年、澤井余志郎氏とともに四日市再生「公害市民塾」を結成。公害資料の保存整理や語り継ぐ作業に重点を置いて活動
- 2015年 四日市公害と環境未来館開設と同時に「語り部」・解説員となり現在に至っている。

### 富山県立イタイイタイ病資料館 語り部

高木 勲寛（たかぎ くにひろ）氏

- 1941年 富山市婦中町蔵島生まれ。現在も在住。
- 2003年 第2代イタイイタイ病対策協議会会長に就任し、企業との直接交渉により、公害病ではない、所謂カドミ腎症の救済制度を成立させる。県立イタイイタイ病資料館の設立・運営に尽力。原因企業との「緊張感ある信頼関係」の構築やイタイイタイ病の教訓が後世に継承されるよう広範囲にわたり活動。
- 2021年 「イタイイタイ病資料館」の語り部に登録し、学生や社会人、企業の方にイタイイタイ病の闘いの歴史やこれまでの経緯全般についてお話していただいている。
- 2022年 イタイイタイ病対策協議会顧問に就任し、活動を継続。